



松本 恵子 (まつもと けいこ)

活断層・火山研究部門 大規模噴火研究グループ

4月から大規模噴火研究グループに任期付研究員として配属されました，松本恵子と申します。3月に東北大学で学位を取得しました。大学院では火山学・地質流体研究分野に所属し，火山噴出物の物質科学的研究を行ってきました。同時に，東北大学博士課程リーディングプログラム「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」にも所属し，文学・工学分野の学生とともに「安全・安心な社会」をテーマに様々な活動（インドネシアの火山災害地域での住民インタビュー，火山観測ロボットの作製など）も行ってきました。

私は，自然現象の物理化学的な仕組みに興味があります。火山噴火は，地学現象の中でも人の観察できるタイムスケールで劇的に変化し，マグマの物理化学条件の微妙な違いがそれを生むというところが特徴だと考えています。今までは桜島の噴火を主な研究対象としてきましたが，今後は巨大火砕流や

カルデラ形成などを発生させる，桁違いに巨大な噴火も対象となります。この“スケール感”の違いが，自分の視点を転換させ，研究視野を広げると考えています。新しいテーマにも楽しんで研究にあたって参りたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。



森田 雅明 (もりた まさあき)

活断層・火山研究部門 マグマ活動研究グループ

本年4月より，活断層・火山研究部門マグマ活動研究グループに配属されました森田雅明と申します。学部から博士課程まで東京大学に在籍し，本年3月に学位を取得しました。大学院では，火山ガスの観測的研究を中心として，火山ガス放出量の自動観測装置の開発と諏訪之瀬島での観測，浅間山における土壌から染み出す火山性二酸化炭素の放出量観測を行いました。火山ガスの観測データを地球物理学的な観測量や地質・地形などと対応させることで，火山ガス放出と脱ガスプロセスや地下構造との対応関係を議論してきました。

産総研では，火山ガスの組成観測を中心として，噴火メカニズムや脱ガスプロセスの解明と火山活動の評価を目指して研究を行っていきたくと考えています。そのためには，地質学や物質科学，あるいは地球物理学的な観測も重要ですので，産総研にいらっしやる多様な研究者のみなさまから勉強でき

ればと考えております。今後ともご指導のほど，どうぞよろしくお願ひ申し上げます。





山崎 雅 (やまさき ただし)

活断層・火山研究部門 大規模噴火研究グループ

活断層・火山研究部門の山崎 雅です。大型あるいは小型のコンピューターを使った数値実験と地質学的・地球物理学的・衛星測地学的観測量との比較を繰り返すことにより、様々な時空間スケールの地殻変動(リフティング・大陸分裂; 数百万年-数千万年~第四紀変動; 数十万年~余効・地震間変動; 数年-数十年)のメカニズムを理解することに努めてきました。ここ地質調査総合センターにおいては、火山活動を地殻変動の観点から理解していくことにも取り組み始めています。地殻の中で実際に生じている現象、つまり地殻変動をもたらす駆動力とそれに対する応答を決める岩石のレオロジーとの相互作用は直接的に観察できないので、衛星測地等によりとらえられる地面の動きを観察可能な現象として扱い、そこから間接的に地殻のダイナミクスを理解していこうとするのが私の取る立場です。それとは異なる立場から地球について研究されている

皆さんと一緒に、ややこしそうだけど実は簡単な普遍法則に規定されているはずの地学現象について研究していけることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。



岡本 京祐 (おかもと きょうすけ)

福島再生可能エネルギー研究所 (FREA) 再生可能エネルギー研究センター 地熱チーム

本年度4月1日付けにて再生可能エネルギー研究センター・地熱チームに博士型任期付研究員として配属されました、岡本京祐と申します。京都大学工学部地球工学科で学士取得後、同大学院へ進学、2014年3月に博士号を取得しています。その後、公益財団法人鉄道総合技術研究所に三年間勤務しました。大学院時代は物理探査工学・地震学をキーワードに、地震波散乱を用いて地下の亀裂変化や地殻応力状態を推定する研究を行ってまいりました。ここでは、地震波伝播の数値計算、理論計算、波形解析をツールとして研究に取り組んでまいりました。鉄道総合技術研究所に入所後は、大学院時代の知識・経験を活かして、地震波伝播の不均質特性を考慮した緊急地震速報の高精度化に取り組むとともに、現場での微動・地震観測による地盤構造推定や、強震動の数値計算に携わってまいりました。

発電に重要な水の移動・亀裂変化の推定、誘発地震のメカニズム、更には膨大な地熱ポテンシャルが予測される地下深部でのそれらのふるまいについて研究していきます。数値計算や理論計算、実観測まで幅広く経験していることを強みに、今後も研究の幅を広げていきたいと考えています。



FREA ではこれまでの経験・知識を活かし、地熱



易 利 (Yi Li)

福島再生可能エネルギー研究所 (FREA)
再生可能エネルギー研究センター 地熱チーム

2017年3月に東北大学で博士課程を修了し、2017年4月からポスドクとして再生可能エネルギー研究センターの地熱チームに配属となった易利と申します。学部学位は中国上海の同濟大学でとって、そのあとに日本の東北大学に留学することになりました。5年間にわたって東北大学の環境科学研究科で修士および博士課程を修了し、日本で研究を続けることになりました。

学部生の時の専門は物理探査で、地震波探査および電気探査を主に勉強をしました。その後、地中レーダに関する研究に興味があって、東北大学で電磁気学と信号処理をさらに勉強しました。具体的にはスパースアレイレーダのアレイ最適化および圧縮センシングに基づいたイメージング手法の開発を主に研究し、開発した手法によってスパースアレイレーダの高分解能イメージングおよび伝搬速度推定方法の実用化を検討しました。

今後は産総研で地熱貯留層の高精度モニタリングの実用化を目指し、一旦地震波イメージングの方向に戻して、微小地震を震源としてのパッシブイメージング手法の研究を進めます。今まで勉強したレーダ分野の知識を地熱の分野で活用し、様々な方法或いは応用を実現したいと思います。今後ともよろしくお願ひいたします。



松本 親樹 (まつもと しんじ)

地圏資源環境研究部門 地下水研究グループ

2017年4月より、任期付研究員として地圏資源環境研究部門の地下水研究グループに配属されました。松本親樹と申します。2017年3月に九州大学で博士の学位を取得しました。

資源・環境工学を専門とし、これまではインドネシアの石炭鉱山で発生する酸性鉱山廃水と呼ばれる「水質汚染」の問題に取り組んできました。熱帯雨林地域の鉱山に滞在するとともに、現地フィールド調査や室内実験を行うことで研究を進めてきました。本問題の原因となる岩石を用いた風化試験や酸抽出分析、周辺環境への影響を把握するための植物生育試験等、複数の観点から検討を行うことでインドネシアの石炭鉱山に適用可能な対策工法を確立しました。

産総研では、地下に存在する水資源に目を向け、日本国内の地下水の資源・環境に関する情報の整備に貢献していきたいと考えております。さらには、

これまでの国外におけるフィールド調査の経験を活かして、日本国内のみならず東南アジア地域の国々も研究対象地域とすることで新たな研究を展開していく所存であります。人との繋がりを大切にして研究に取り組んでいきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

